

音楽科学習指導案

令和 5 年 12 月 日()第 校時

3年 組 名

指導者

1 題 材 名 情景を思い浮かべながら、音楽のよさを味わおう

2 題材の目標

- (1)「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 (知識)
- (2)「ブルタバ」の音色、強弱、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3)「ブルタバ」の音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに関心を持ち、音楽を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 教 材 「ブルタバ(モルダウ)」 スメタナ作曲

4 題材について

(1)生徒の実態

本学級の生徒は、素直で明るく元気で、音楽のどの領域・分野においても、一生懸命考え、楽しみながら取り組むことができている。鑑賞領域でも、「強弱がはっきりついていた」のように音楽を形づくっている要素に注目をして聴き取れたり、「たくさんの動物が楽しく遊んでいる情景が思い浮かんだ」のように音楽から情景を思い浮かべたりしながら感じ取ったりすることができている。しかし、コロナ禍で中学校生活の大半に制限があり、班で意見を伝え合う活動をほとんど行えていないためか、自分の思いを自主的に伝えることが苦手である。2年次より、音楽科の授業の導入として、プチ鑑賞を行い、音楽を形づくっている要素を1つか2つに注目をおき、鑑賞活動を行ってきた。少しずつ、音楽を形づくっている要素から、曲想がどうなっているから、どのような情景を思い浮かべたかなど、根拠をもって鑑賞活動に取り組むことができ始めるようになってきている。

(2)教材について

交響詩「我が祖国」の第2曲「ブルタバ」は、2種類の楽器を用いて、冒頭の2つの源流が表現されていたり、森での狩りは、実際に狩りで使用されていたホルンで表現されていたりと、楽器の特徴を生かした音楽になっている。また、緩やかな流れから急流を表現する場面では、「sff」で同じ音の繰り返しとなり、音楽を形づくっている要素に注目をしてブルタバ川のような情景を想像し、作曲者の祖国への思いに触れながら、鑑賞することができる標題音楽である。

(3)指導に当たって

楽譜と標題を提示し、場面ごとに鑑賞しながら、流れている音楽が、どの標題か根拠をもって鑑賞する活動を行い、個々の考えをまとめる。その後、班に分かれ、班ごとに音楽を再生しながら、意見を伝え合い、

班の意見をまとめて発表をする時間を設ける。また、作曲者や作曲された時代背景について理解をし、作曲者の祖国に対する愛国心についても考える。さらに、管弦楽についても学び、音楽を形づくっている要素に注目をして再度鑑賞し、「ブルタバ(モルダウ)」の紹介文を書く時間を設けたい。個々の考えを班で、さらには学級内で伝え合うことで、互いの考えが深まり、様々な感じ取り方や考え方がありと知り、伝え合うことの大切さに気づいてほしい、もっている知識から音楽が表現する情景を豊かに想像し、楽しみながら鑑賞をしてほしいと思い、本題材を設定した。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 B 鑑賞 (1)鑑賞

ア(ア)曲や演奏に対する評価やその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

イ(ア)曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。

【共通事項】(1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」、「強弱」、「速度」)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 「ブルタバ」の音色、強弱、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	態 「ブルタバ」の音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに関心をもち、音楽を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画(本時1/3時間)

時	教 材	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価(◆評価方法)		
			知・技	思	態
1 本 時	「ブルタバ(モルダウ)」	◎情景と音楽の特徴との関わりを感じ取りながら鑑賞する。	◆ワークシート ◆観察 知		
		●楽曲を聴いて、どのような情景を想像したか伝え合う。 ・様々な情景が想像できることを知る。 ・川の流れて沿って描かれていることを知る。 ●5つの場面を取り上げ、それぞれの場面がどの情景を表しているかを考えながら鑑賞する。 ・個々で、聴いている場面がどの情景かを根拠をもって鑑賞する。 ・班で個々の意見を伝え合い、再度音楽を聴きながら考えを深め、班の意見をまとめて発表する。 ・音楽の特徴と情景とが関わりあっている標題音楽について知る。			
2	「ブルタバ(モルダウ)」	◎標題と音楽の特徴との関わりを理解して鑑賞する。 ●交響詩であり、管弦楽で演奏されていることを理解する。 ・楽器編成や交響詩について知る。 ・標題について知る。 ●標題を確認しながら、音楽の特徴との関わりに注目し、鑑賞する。 ・班に分かれ、場面を分担し、標題を表現するために、どの音楽を形づくっている要素が関わっているか考え、意見をまとめ、伝え合う。 ・標題と音楽の特徴との関わりを把握した上で、全曲を通して鑑賞する。			
3	「ブルタバ(モルダウ)」	◎楽曲の背景や作曲者の思いを理解して鑑賞し、「ブルタバ(モルダウ)」の紹介文を書く。 ●作曲された当時の時代背景や作曲者の思いについて理解する。 ・作曲された時代背景、作曲者について知る。 ・曲の最初と最後にある「ブルタバの主題」に注目し、どのような思いが込められているか考え、伝え合う。 ・楽曲の魅力を伝える紹介文を書く。		◆ワークシート ◆観察 思	◆ワークシート ◆観察 態

8 本時の学習

(1) 目標

情景と音楽の特徴との関わりを感じ取りながら鑑賞する。

(2) 展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1 「ブルタバ」を聴いて、想像した情景を伝え合う。	○曲名、作曲者、ブルタバ川の位置を伝えた後、鑑賞し、想像した情景を伝え合う。 ○どこからそう思ったかを尋ねる。		音色 強弱 速度
2 本時の目標を確認する。	情景と音楽の特徴との関わりに注目をして鑑賞しよう		
3 場面ごとに鑑賞し、どの情景を表現しているか考える。	○個々のワークシートに自分の考えをまとめる。	◇「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 ◆ワークシート、観察	
4 班で考えを伝え合い、再度鑑賞しながら、班の考えをまとめ発表する。	○班でタブレットを活用しながら、個々の意見を伝え、まとめる。 ○班の意見を発表する。		音色 強弱 速度
5 本時のまとめとして、授業を振り返る。	○情景と音楽の特徴との関わりから、標題音楽について知る。		

(3) 評価及び指導(手立て)

〈知識・技能〉

A 「十分満足できる」と判断される具体的な状況	「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解をして聴き、考えをワークシートに書くことができている。
B 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導(手立て)	「ブルタバ」の曲想がどうなっているか尋ね、確認をする。そこから、どのように感じるか、ワークシートに自分の言葉で書くよう声かけを行う。